

1 現状と課題に関すること

- ① 年代や移動目的など、バス利用促進のターゲットを絞れるような観点での分析を加えてはどうか【伊藤会長】
- ② トリップ数の減少や観光需要の増加について、年齢層別の分析や、要因の分析を加えることで、効果的な対策を講じやすくなるのではないかと【鎌田委員】

【対応の方向性等】

- ・利用促進の取組を進めていくに当たり、あらかじめデータやニーズ等を分析し、その結果に基づきターゲット毎の課題を明確化した上で新たな運賃サービス導入などを進めていくこととしている。
- ・現在、移動目的別の利用状況データや利用者の声等の分析を進めているところであり、今後も、ご意見を踏まえ、幅広く分析を進めていきたい。
- ・観光需要については、市の観光部局と連携しながら、その動向等やニーズ等の調査分析を行う。

2 わかりやすさ・使いやすさに関すること

- ① 路面電車とバスについては対立構造で考えず、役割分担をした上で、両方の需要が増えるよう連携して考える必要があるのではないかと【鎌田委員】
- ② どこに行くバスなのかわかりづらい。路面電車のように、例えばGoogleマップ上で路線を可視化することで、利用を増やせるのではないかと【吉崎委員、伊藤会長】
- ③ 路線毎にカラーを設定することでもわかりやすくなる。見た目にも行き先や走っていることがわかりやすくしていく必要があると思う【伊藤会長】

【対応の方向性等】

- ・路面電車とバスの関係性については、公共交通全体の利便性や効率性の向上にも資するよう、市の方針や利用実態等を踏まえながら適正な役割分担を検討していきたい。
- ・バス情報の発信については、統一したデザインによるわかりやすい時刻表・路線図の掲示、案内サインの見直しなどに取り組んでいきたいと考えており、ご意見のあったマップの可視化や路線のカラーリングなどについても、その中で検討していきたい。

3 定時性・速達性に関すること

- ① 既存のバス専用レーンをもっと効果的に活用して、車よりも優れた定時性や速達性となるよう取り組んでいく必要がある【伊藤会長】
- ② 国道183号など時間帯によってバスの移動時間の方が短ければ、そういうことをPRしていくのも良い【伊藤会長】

【対応の方向性等】

- ・定時性・速達性の向上については、まずは遅延時間や課題のある交差点等の現況調査を進めている。今後、その結果を踏まえ、既存のバス専用・優先レーンの実効性の確保や、走行が困難な交差点の改良等のほか、基幹バスにおける急行便の拡充や全扉降車の段階的導入等に取り組んでいく。

4 運賃サービスに関すること

- ① “迷うことなくスムーズに乗り降りできる決済システム”は、広島市内外の方のバスの利用しやすさや利用促進という観点に密接に関わってくるものであるため、引き続き改善に取り組んでもらいたい【伊藤会長】
- ② 広島市内のどの交通モードでも利用できるチケットみたいなものができることを期待したい【伊藤会長】
- ③ 均一運賃エリアに、イオンモール府中や商工センター地区など賑わいのある、又は賑わいを生もうとしているエリアを入れるべき【栗原委員】

【対応の方向性等】

- ・市においては、あらゆる交通モードを共通の運賃制度の下で一つのシステムとして連携統合する“広島型公共交通システム”の構築を目指しているところであり、プラットフォームにおいても、その考え方を踏まえながら、短期的には利用者のニーズやまちづくり施策に対応した多様な運賃サービスの提供や決済システムのサービス向上等に取り組むほか、中長期的課題として、将来の運賃体系や決済手法のあり方についても検討していきたい。

5 情報発信に関すること

- ① バス事業が危機的状況にあることを効果的に周知する手段を考える必要がある。プラットフォームが情報発信を強化していくに当たり、インターネットなどを含め若者などに対する効果的な周知の仕方を検討すべき【橋本委員】
- ② 利用者に対しての情報発信の一環で、バスまつりなどイベントを積極的に活用して、バスの良さを実感してもらえよう取り組んでもらいたい【伊藤会長】
- ③ 若者の車への興味が薄れてきている中であって、若者のバス利用についての意識調査や利用を喚起するイベント開催などにも取り組んでもらいたい【栗原委員】

【対応の方向性等】

- ・バスの利用状況、収支状況のほか、沿線のイベント情報や便利なサービスに関する情報などについて、バス事業分科会への定期的な報告やウェブサイト等による周知を行い、利用者の理解や協力を求める。
- ・また、学生をはじめ多様な利用者の意見を、市民意識調査の実施や新規取組に合わせたアンケート調査など様々な機会を捉えて収集し、利用者とのコミュニケーション強化による信頼関係の構築に向けた“広報戦略”づくりにつなげていきたい。

6 マイカー利用からの転換に関すること

- ① 中心部の駐車料金をコントロールすることでバスの優位性が高まるなど、都市全体の視点を踏まえた交通政策と絡めてバス事業の位置付けを議論していかないといけない【伊藤会長】

【対応の方向性等】

- ・バスの利用促進を進めていくに当たっては、マイカーと比べたバスの優位性を高めるなどバス利用の価値を上げるための取組が必要であると認識している。
- ・特に都心部においては、“ウォーカブルなまちづくり”施策とも連携しながら、バス停の集約やストレート化等の環境改善の取組を進めるとともに、路面電車との適正な役割分担や他モードとの連携などにより、公共交通全体の利便性向上を図っていきたい。